

# 本を選び

## 高校図書館版

NO.55

2013年(平成25年)5月20日  
<http://www.las2005.com>

●発行／ライブラリー・アド・サービス  
〒335-0004 埼玉県蕨市中央5-20-1 TEL=048-432-3726

ろん・ぽわん

### 「答」ではなく「応え」を

5年前まで、高校で家庭科を教えていた。家庭科と言えば、「被服と食物」と思われるがちだが、今は21世紀である。この便利な時代に何を選択してどう生きるのか。衣・食・住、保育、家庭生活、家庭経済、ライフステージなど、家庭科の単元を通して「いかに生きるか」を生徒に投げかけ、「考える授業」を目指していた。考える授業。言うのは簡単なのだが、行うのは難しかった。生徒に考えてもらう前段階に生徒が乗ってくるような仕掛けが必要である。

「ねえ、アナタ達、なにを選択して、どう生きていくのよ?」「いっぱいの食品の中から何を食べる?」「そのダイエット大丈夫?」「一人暮にいくらかかるか知ってる?」「親が年とったら、介護がいるかもよ。」「将来、子どもを育てるつもり?」「そもそも結婚ってなんだろうねえ。」生徒に尋ねたいことは多くあつたけれど、直線的な問い合わせには一面的な答しか望めない。授業の中での問い合わせの答は、優等生的になりやすい。

私が求めているのは“答”ではなく、“応え”である。私は生徒に心で応じてほしい。そうでなければ、意味がない。となると、私は生徒の頭に向かって語りかけてはいけない。私は私の心のやわらかいところにあるものを生徒たちの心のやわらかいところに投げないといけない。

食物の授業。「今日は絵本読むね」と私。「絵本、ダルウ~」、「高校生に絵本かよー」という空気の中、

『はせがわくんきらいや』(長谷川集平著、復刊ドットコム)を読み出す。感情移入はせず、淡々と読む。雑多な気配は消えて、静まりかえり、40人の生徒の心が絵本に釘付けになる。ともに味わう。母親が良かれと思って子どもに与えた食品が引き起こした悲しみ、作者の社会への告発と憤り。言いようのない悲しみや憤りをともに抱えさせられつつも、自分自身が告発される社会の側にも立っていることを感じざるをえない。

家庭科の授業としては、食品添加物、食中毒、遺伝子組み換え食品……へと展開させるのだけれど、私が投げるのは「ねえ、アナタ達、なにを選択して、どう生きていくのよ?」というボール。絵本の力を借りて、私のやわらかいところから投げたボールは生徒のやわらかいところに届くことが多かった。そんなとき、投げ返されるボールは一つではなく、40個であった。

授業の導入には絵本だけでなく、テレビ番組、新聞記事、タレント本などもとりいれた。テレビ番組はわかりやすいが、生徒の考えが一つに帰結しがちであった。新聞記事は時事性があつてタイムリーだが、論理的思考に流れやすく、タレント本は食いつきはいいものの、浅く流れやすかった。高校生にとつて平明な表現の絵本は作者の魂がじかに感じられると同時に考える余地が多く残されるので、「いかに生きるのか」を考える糸口に最適だったように思う。

「いかに生きるか」と刻まれた石碑を、高いところから地上に思いつきり叩きつけて粉々にして、「いかに生きるか」を考える手がかりまで奪われたような2年前の大震災を経験して、「図書館の応える力」の意味を一層大きく感じている。(星野 聖明:臨床心理士)

# 県立高校3校に新人司書が赴任しました

—埼玉県は、平成24年度、10年ぶりに司書の募集をし、4月から三つの高校に新人の司書が配置されました。3人が仕事にかける思いを語つていただきました—

少しでも多くの資料と幸せな出会いを

松山裕輝さんの場合

赴任一年目の仕事は、まず、一年の流れをつかみながら利用を増やしていくことだと考えています。

5階にある図書館まで、やってくる先生や生徒は、今のところ少ないです。そのため、展示に力を入れたり、図書館だよりの回数を増やしたりしたいと考えています。展示については、あまりスペースがなかったので、別の学校司書の先輩などに相談をして、まずは展示スペースを確保することを優先し、その後、閉架に移す予定の資料を除籍するか閉架にするかを判断して、その後でデータ処理をすることにしました。図書館だよりについては、新刊が入ったときに速やかに情報提供ができるように、発行頻度を増やしたいと考えています。生徒からのリクエストにもすみやかに対応したいです。

高校時代に司書になりたいと思って、図書館情報大学を選んだのは、本が好きでというより、高校の近くにあった市立図書館の居心地が良かったからでした。本当に本が好きになったのは、大学に進んでからです。ただ、その後、本を読んでいて、高校生のときには出会っていれば、と思うことも少なくありませんでした。だから、というわけではありませんが、すこしでも多くの生徒がすこしでも多くの資料と幸福な出会いをしてほしいし、そのためにはサポートしていきたいです。

大学を卒業したあと、もっと図書館のことを学びたいと考え、北米の大学へ留学を希望しましたが、3年間経っても、結局、思うようになりませんでした。その後は、留学準備期間に学んだ英語を活かすため、高校生の交換留学の仕事を5年間しましたが、図書館で働きたいという気持ちがどこかにありました。年齢制限などで、最後のチャンスになると思っていた昨年、埼玉県の司書の募集を知り、応募しま

した。県立図書館ではなく、学校図書館を選んだのは、一人職場なので、図書館を運営する全ての行程を学べると思ったからです。

前任の方は3月で退職されましたが、前任者の仕事をしっかりと受け止めながら、同僚の先生や、他の学校司書の先輩、同期の方々に相談しながら、より活気のある図書室にしていきたいと考えています。（まつやま ゆうき：埼玉県立川口東高等学校司書）

毎日、少しでも何かを変えていきたい

玉井 敦さんの場合

初めて図書館に勤務したのは大学卒業と同時に、住んでいる市の公共図書館です。当時の市は、若手職員には色々な部署を経験させるという方針で、3年目には障害者福祉の部署に異動になりました。そのときは大きなショックを受けましたが、今では良い経験だったと思います。

昨年、県で司書の採用試験があることを知り、慌てて応募して運良く採用されましたが、赴任先が母校だったのには、驚きました。

私が高校へ入学したのは、前任司書の木下通子さんが本校に赴任された年でした。リクエスト制度が始まり、薄暗かつた廊下に電灯が付いて明るくなり、夏休みや春休みには生徒も協力しながら、館内のレイアウトが変わり、五階にあっても貸出冊数が三倍になりました…、図書館がみるみるうちに、いきいきと変化して行く姿を、今も強く覚えています。

高校時代はライトノベルをよく読みました。橋本紘や桜庭一樹、有川浩などが、ライトノベルを書いていたころです。作家さんの成長を追うような形で、高校から大学にかけて、次第に読書の内容も変わっていきました。そのころの経験から、生徒が何を読むかということについては、あまり偏見を持たず、「そのとき読みたいものが、そのとき読むものなのかなあ」と思っています。今まで

の僕の読書は趣味の読書でしたが、これからは司書として、出版社のホームページや書店その他の情報源を広く見ながら、話題の本や面白そうな本を拾つていけたらと思っています。

「毎日、少しでも何かを変えていきたい」というのが今のテーマです。図書館が成長する有機体であるなら、昨日と今日がまったく同じで良いはずがないと思うからです。今のところ、そういう「変えるところ」には事欠きません。4月のはじめから図書館前の壁に貼つてある映画『図書館戦争』のポスターも、その隣の「いつ読むか? 今でしょ!」という貼り紙も、そろそろ…。僕たちが在学中に作ったPOPなども、ずいぶん古びてきていますし、ちょっとゴチャゴチャになっている棚も目に付きます。開架にでている本が多いので、その整理もしたいし…。

今年は、どういうときにどういう本が動くのかをしつかり見て、2年目ぐらいから少しずつ手応えを感じるようなことを試していきたいと思っています。(たまい あつし:埼玉県立春日部東高等学校図書館司書)

#### 前任者の仕事を読み解く

長濱嶺平さんの場合

常連さんは10分の休み時間にもよく利用してくれます。先生方も良く利用して下さって、「前任者は、図書館を使いやすい良い図書館にしてくれた」と皆さんにおっしゃいます。

確かに、細やかな展示の数々、棚は適度な冊数で、目の高さの棚では、アチコチに面出しで本が立てかけられています。壁掛けも中央の大きな机も興味津々です。ワクワクすることに、例えば、棚も、動かした動線が判るんですよ。元はどんな風に棚があつて、それをどういう考え方から今の様に並べ変えたのか、なぞって学び、読み解いていく作業を繰り返して、来年は自分らしさを出せるようになりたいと思っています。

前任者の方が選ばれた蔵書は生徒をご存知だからこそだと思いますので、それを参考にしながら、蔵書の構成を考えてゆきたいです。生徒は、ライトノベルが好きです。僕自身は、ライトノベルを

読んだことがないのですが、今年は、生徒の動きをじっくり見極めたいと思っています。

生徒が来なくなる図書館にしたいです。そのためにはまず僕自身が魅力的な人間になって、司書を売る? 工夫も必要かと、積極的に話しかけるようにしています。白い布に「長濱」と大きく書いてルビをふったゼッケンを、エプロンの正面に縫い付けたのも、工夫の一つです。マンガもOKになっているので、ちょっと思い切ってライブラリーニュースの2号を、コマ割にして、司書の自己紹介版のようなページも作ってみました。

図書館は5

階にあります。下の階の階段の踊り場には、図書館の掲示板があつて、そこで図書館からの情報を伝えています。2階と3階の間の踊り場には、「図書



館まで50段!」というハンディを逆手にとったポップも貼つてあります。新年度早々に美術の授業に利用されましたし、学校に溶け込んでいる図書館だと思います。

僕は、大学で図書館情報学を学ぶまで、図書館の経験は一切ないんです。本も読まなかつたし、高校の図書館は、受験勉強の場でした。大学の文学部に合格したとき、全然知らないというか予想の付かない学問が、図書館情報学だったので、それを選び、知らない世界のことをたくさん知りました。

採用されたとき、教員免許も司書教諭の免許も持っていたので、県立図書館より自分の力を発揮できるのではないかと思って学校を選びました。(ながはま りょうへい:埼玉県立妻沼高等学校図書館司書)

# 自分で読んで、「おもしろい！生徒にもすすめたい！」本

公立高校の図書館は4階や5階にあるのが定番のようですが、それでも生徒が図書館にやってくるのは、そこに本があるからです。

学校図書館の司書さんは、それぞれ自校の生徒のために、特色ある蔵書を収集する一方で、高校生活の三年間に出会ってほしい普遍的な本を選ぶのに心を砕いています。

高校図書館の司書さんが連携して、時代を反映して、しかも生きていくのに勇気を与えてくれる本を選んできた四つの試みをご紹介します。

## 神奈川学校図書館員大賞（ＫＯ本）

KO本については以前にも小誌でご紹介しましたが、神奈川学校図書館員研究会が選んだ本です。神奈川の学校司書さんたちの官制の研究会で、昭和30年に発足した伝統のある会です。県立・市立・私立高校186校が参加しています。「かながわ・おもしろ・本」「Knock・Out・された本」「これは・おさえておきたい・本」の頭文字をとつて「KO」と命名され、要は会員が一年間に自分で読んで、「おもしろい！生徒にもすすめたい！」と思った本です。

2008年、第一回大賞に選ばれたのは『図書館戦争』（有川浩／著 アスキー・メディアワークス）。以後『武士道シックスティーン』（齋藤哲也 文藝春秋）、『神去なあなあ日常』（三浦しをん 徳間書店）、『桐島、部活やめるってよ』（朝井リョウ 集英社）と続いて、昨年度『舟を編む』（三浦しをん 光文社）、今年度は『楽園のカンヴァス』（原田マハ 新潮社）と続いてきました。

この企画は鳥取県の司書有志が生徒にお薦めの本を選ぼうと2010年に始まりました。

第一回大賞に選ばれたのが、『かのこちゃんとマドレーヌ夫人』（万城目学 筑摩書房）、第二回、『困つてゐる人』（大野更紗 ポプラ社）、2012年『きみはいい子』（中脇初枝 ポプラ社）。

ノミネートの作品を読んだ上で、選考員は、1、2、

3位という順位をつけて投票し、1位=5ポイント、2位=3ポイント、3位=1ポイントで集計するそうです。（同賞HP）

一次選考・二次選考のコメントは、全て公開されています。2012年の候補作品には、『舟を編む』『楽園のカンヴァス』『ナミヤ雑貨店の奇跡』（東野圭吾 角川書店）などの小説だけでなく、『おべんとうの時間2』（阿部了、阿部直美 木楽舎）、『地球のごはん 世界30か国80人の“いただきます！”』（TOTO出版）などの人文系理科系の本も入っていました。

## 埼玉県の高校図書館司書が選んだイチオシ本

こちらも2010年から始まりました。「イチオシ本」は「埼玉県高校図書館フェスティバル—図書館は楽しい—」の企画の一つとして、フェスティバルの実行委員会が県内の高校司書に働きかけて選んだ本です。

1月から1年間に出版された本の中から、高校生にお薦めしたい本を3冊、県内の高校司書に投票してもらいランキングづけしています。

初回に選ばれたのは、『世界で一番美しい元素図鑑 The Elements』（セオドア・グレイ 創元社）

2年目、57名より91タイトルの応募があり、選ばれたのは、『舟を編む』でした。2012年版は、県内約150人の高校司書のうち72名が投票に参加し、120タイトルの応募のうち選ばれたのは、『楽園のカンヴァス』（原田マハ 新潮社）でした。

「埼玉県高校図書館フェスティバル—図書館は楽しい—」は、高等学校の図書室の活動の内容や現場の人が感じている課題などを、一般の市民と共有することを目指して、シンポジウムなどの開いています。イチオシ本は、取り組みを成功に導く大切なツールです。今年のフェスティバルは6月2日です。

## 図書館フリーウエイ

東京都の学校司書さんも、有志が協力して、新しい試みを始めました。最初の催しが盛況のうちに終

了。特色は、「～高校生と本と図書館と～」といって、高校生を巻き込んでいることでしょう。司書さんの薦める本以外に、都立高校図書委員が薦める本が紹介され、しかも、両者が、ビブリオバトルを繰り広げ、選ばれたのは、高校生が推した『キリン』(山田悠介 角川書店)でした。

都立高校図書委員が選んだ部門は二つあり、小説部門第一位は、『図書館戦争』シリーズ。ライトノベル部門の第一位は、『ソード・アート・オンライン』(川原礫 アスキー・メディアワークス)。

自分で読んで、「おもしろい！ 生徒にもすすめたい！」本を広める取り組みは、それぞれの公共図書館やその地域を代表する大型書店などの支援を得

て、フェアが開かれるようになり、高校の図書館以外の場所で、多くの人の目にとまり手にとられにくようになりました。また、本の帯に「大賞受賞」を刷り込んでくれた出版社もあります。

高校生を直接巻き込んだ取り組みや、シンポジウムや講演会と組み合わせて市民に「図書館」を理解してもらったり、身分の問題を投げかけたりということに留まらず、新しいアプローチがどんどん試されて、ヤングアダルトの世代に薦められる本が学校を飛び出して手にとられるようになっていくのも楽しいですね。こんな面白いことしているよという情報がありましたら、編集部まで情報をお寄せください。(編)

### DM かたろぐ

世界地名大事典

宗 教 の 事 典

アーネーションの事典

古代の科学と技術

太陽系探検ガイド

③中東・アフリカ  
山折哲雄監修  
'13 総合図書目録あります。ご請求下さい。

横田正夫ほか2名編  
図説人種の歴史別巻  
定価 2,650円

渡部潤一監訳  
定価 1,470円

定価 1,575円

定価 4,725円

回朝倉書店 東京都新宿区新小川町6-29  
TEL 03-8707 03-3260-7631

**JLSA**

### 一般社団法人 日本図書館事業協会

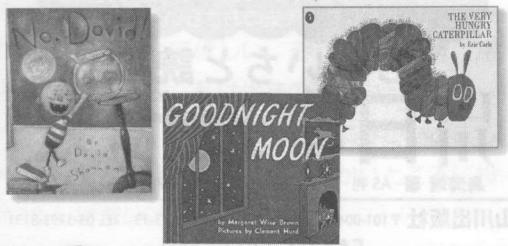
私たちJLSA(日本図書館事業協会)は、  
安価で使いやすい書誌データの提供を  
目指していきます！

2013年4月より  
JAPAN/MARC頒布事業を開始しました。  
2014年4月までに公共及び学校図書館で  
導入しやすい価格体系を実現します。

[www.jmarc.or.jp](http://www.jmarc.or.jp)

〒160-0008 東京都新宿区三栄町6番地  
電話 03-6380-4861 FAX 03-3351-5772

2013年度 英語名作ライブラリー  
世界の名作 大きな絵本A、Bセット  
エリック・カールの大きな絵本セット  
世界の名作絵本A～Fセット  
子供の世界旅行 ジスイズ・シリーズ



株式会社 三善 〒167-0032 東京都杉並区天沼2-2-3  
TEL:03-3398-9163 FAX:03-3398-9170

「もっと知りたい！」の声に応える新シリーズ刊行！  
新しい発達と障害を  
考える本  
(第1期)  
全4冊

<p>① 自閉症のおともだち 内山登紀夫監修 オールカラー 各1,890円</p>	<p>② アスベルガー症候群 おともだち もつと知りたい！ もつと知りたい！ もつと知りたい！</p>	<p>③ LD(学習障害)のおともだち 神奈川LD協会編 伊藤久美編</p>
<p>④ ADHD(注意欠陥多動性障害)の おともだち もつと知りたい！ もつと知りたい！ もつと知りたい！</p>		<p>伊藤久美編</p>

ミネルヴァ書房 京都市山科区日ノ岡堤谷町1  
TEL 075-581-0296 ※価格税込

## Choose Your Own Adventure Graded Reader シリーズ

全30冊 定価 各800円+税 A5/並製

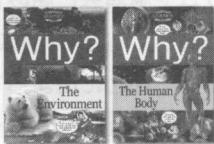
全世界で2億5千万部の販売を記録。  
日本の学習者向けに読みやすく  
アレンジされて新登場!

本を読むあなたが  
主人公です



## Why? シリーズ 全10冊

韓国で出版され2千万部  
以上という驚異的売上を  
記録した科学教育マンガ  
"Why?"の英語版



英語マンガで科学の  
世界を探検しましょう!

mp3 CD付 定価 各2500円+税  
B5変型/上製

Mc  
Graw  
Hill  
Education

マグロウヒル・エデュケーション

〒105-0004 東京都港区新橋6-19-19 アセンド新橋3F tel: 03-5408-1888  
✉ elinfo@mheducation.com 🌐 www.mheducation.co.jp



## 漢検・漢字ファンのための 同訓異字辞典

浅田秀子著 漢字の表記でも同じ訓読み（例えば、はかる→計・測・量・諦・謀）の同訓異字の漢字は使い分けに迷う。表記に迷いやすい287項の漢字使い分けを著者が編集工夫し懇切丁寧に解説

四六判 514頁  
定価3360円



A5判 178頁  
定価1680円

東京堂出版 <http://www.tokyodoshuppan.com>

中国の伝説的恐竜学者による  
アジアの恐竜についての  
初めての概説書！

董枝明 著  
富田幸光 監訳  
関谷透訳

## アジアの恐竜

近年飛躍的な進展をとげるアジアの恐竜研究！

初公開の写真・挿絵・生態復元図など

約600点の図版とともに、アジアの恐竜発掘史・研究史をわかりやすく解説したビジュアル決定版！

- ◆カラー写真・図版600点以上
- ◆アジアの恐竜リスト約230点
- ◆恐竜化石産地の地図・年表
- ◆地名索引・人名索引・引用文献リスト付

A4変型/上製/総343頁/オールカラー  
9975円 ISBN 978-4-336-05629-0

国書刊行会 〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15  
TEL 03-5970-7421 FAX 03-5970-7427【税込価】

週刊 絵巻で楽しむ 全6巻(分売不可)

## 源氏物語

秋山 虎 監修 五十四帖(合本版) 定価35,200円(税込)

30×24cm/各巻380ページ/ISBN 978-4-02-380018-2

好評の百科シリーズが豪華合本に！

日本文学の最高峰『源氏物語』。その源氏絵巻を世界中から一堂に集めた、初めての百科シリーズです。読み物と絵巻を1号1帖交互に配置し、現代語訳には丁寧な解説も。人物関係図・出来事年表と合わせて読めば、複雑なストーリーも簡単に把握できます。図も満載なので古典の学習に役立ちます。

朝日新聞出版

〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2 ☎ 03-5540-7793(直販) <http://publications.asahi.com/>

NO. 30

## 部落解放・人権図書目録

2013 A5判/102頁/価格300円(税込)

●2012年11月までに刊行(予定も含む)されている書籍905点を紹介。

項目

《部落問題》総記・事典/現状/運動/教育  
/行政/歴史/文化・思想  
《人権》基本的人権/人権一般/性差別/他  
部落解放・人権関係雑誌一覧  
書名索引・著者索引・掲載出版社名簿

●書店様ごとにご注文ください。

## 部落解放・人権図書目録刊行会

〒162-8710 東京都新宿区東五軒町6-24 トーハンビル内  
TEL 03-3266-9521

大好評「レンズが撮られた」シリーズ第8弾！

## レンズが撮られた 永久保存版 幕末日本の城

来本雅之 編 小沢建志・三浦正幸 監修  
B5判 1,890円(税込) ISBN 978-4-634-15036-2

しっかり勉強した人も、あまりしなかった人も  
「もういちど」で近代史のおさらい！

## もういちど読む 岩日本近代史

鳥海靖 著 A5判 1,575円(税込) ISBN 978-4-634-59112-7

山川出版社 〒101-0047 東京都千代田区内神田1-13-13 TEL 03-3293-8131

FAX 03-3292-6469